

ホーム名:グループホーム美樹の園(ユニット 玄武)						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に事業計画や目標を立て、スタッフ会議、勉強会の場を活用し、職員間で周知を図っている。日々の振りかえりシートも活用し、意識の向上を目指し、理念の実践に努めている。	法人の理念を基本にされた事業所の目的、及び、運営の方針が重要事項説明書に明記されている。地域社会との共存、人権擁護、意思の尊重、福祉技術の研究と向上等が謳われており、職員も自己研鑽に励んでいる。また事業所の支援活動の基盤ともなっており、機会あるごとにその周知が図られている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所であるよう、喫茶コーナーや研修室は、地域の方々がいつでも利用して頂けるように開放している。又、各イベントへもいつでも地域の方が参加できるように運営推進会議でお知らせしている。地域のお祭り、催しには参加している。 【今年度も新型コロナウイルスの影響で地域イベントもほぼ中止となり実施できなかった】	事業所内のディサービスセンターには、地域の福祉活動に利用してもらえるように開放されたフロアやルームなどが用意されている。事業所からの行事なども地域に発信をされており、双方にとって地域活動の中継的な役割を果たせられている。コロナ渦の最中にある為、まだここ数年間は、従来の活動が停滞気味の状態になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教室、映画、喫茶等すべて地域に開放し暮らしの一部として活用して頂けるようにしている。地域への啓発活動として、小学校や老人会へ出向き、認知症の方が安心して地域で生活できる町作り活動を行っている。 【新型コロナウイルスの影響で現状は行えていないが、法人のイベントとしてグループホームでフレイル予防の講演会を行った。】			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず開催し、自治会長、民生委員他出席者から戴いたご意見や情報をサービス向上のために活用している。出席者はいつも20名前後くらいである。 【今年度は集合しての開催と、書面開催での開催を実施した】	今年度も6回の運営推進会議が開催されたが前半の3回はコロナ渦の為、書面開催を余儀なくされた。書面会議では予め意見や要望の提出を願っており議事録に掲載されて周知が図られている。後半3回の参加者は自治会長、地域包括、民生委員、仏教大学講師等の知見者、事業所・法人の職員、多くの家族の方々であり、近況報告・予定・意見・要望等が話し合われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	啓発活動の報告を行い、依頼があれば出向いている。地域包括も協力的で常に、南区グループホーム連盟の連絡会やイベント、当施設の行事などにも参加していただき、協力関係に努めている。 【今年度も新型コロナウイルスの影響で、啓発活動は中止したが、グループホーム連絡会は実施した。】	地域に対して認知症の正しい認識を持ってもらう為の活動と報告をし、市職員と一緒に活動される事もある。グループホーム連絡会にも参加し、市職員が同席された場合は、近況についての情報交換をされたりして緊密関係の構築を図られている。市に利用者の作品を見せたり市からのメール配信を受けたりもしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会及び身体拘束等適正化委員会による勉強会や、マニュアルによる身体拘束を全職員で理解し、拘束しないケアに努めている。	身体拘束のない支援を実践する為のマニュアルは策定されており、入職時に説明を受けた上で配布もされている。リスクマネジメント委員会は毎月開催、身体拘束等適正委員会は年4回開催されている。毎月のスタッフ会議の中で身体拘束の勉強会が実施され、常に身体拘束をしない支援に徹する為の研鑽に励んでいる。外出する時は職員が付き添う事で安全確保が図られている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、勉強会を定期的に行うようにしている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修への参加、勉強会を定期的に行うようにしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書などについては、十分にご理解を戴けるように努めている。疑問や質問に対しても同様である。</p>		
10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>声ボックスの設置、職員による聞き取りによる声、アンケートは、スタッフ会議、運営推進会議で報告、結果については、担当が分析し、今後の運営に生かしている。</p>	<p>家族が訪問されてきた時は直接話を聞かれてたりされているが、それ以外に管理者は月に一度は家族に電話をされ意見や要望を聞かれたりもされている。アンケート調査も行われ、ケアプラン時にも手紙を出され意見等を聞かれている。結果は会議等で共有され反映に努められている。</p>	
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>意見、提案等は、スタッフ会議等において聞き取っている。又年2回のフィードバック時、個々の意見を聞き取っている。</p>	<p>月一回の全職員のスタッフ会議で意見や要望を話され、同じく月一回のグループホーム会議では2階のグループホーム職員だけの話し合いが実施されている。また人事効果される時に個別面談されフィードバック時にも職員からの意見を聞かれ業務改善に繋がられている</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課を実施し、評価を行っている。個々に目標を持って取り組み、達成度合いや内容について、きちんと評価している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修に月1回確保、年2回のフィードバックを指導する時間を確保している。法人外の研修には、正職員、非常勤職員を問わず、参加する機会を与えている。認知症実践者研修には、2年以上の全職員が参加している。 リーダー研修には6名が参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>堺市南区内及び堺市全体の連絡会に参加している。南区のグループホームが行うイベントなどにはお互いに参加し参考にしながらサービスの質を向上させるように努めている。 【堺市全体、南区の連絡会は、新型コロナ感染リスクを考え、開催できていない。南区内の施設とは電話でのやりとりを頻繁に行える関係性です。】</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談時、面接時、入居時に本人の要望や希望、不安なことや思いを聞き取っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>申し込み時面会時などに家族が許す限り聞き取っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>待機等ですぐに入居できない状況にあるので、法人の他のサービス(認知症デイ龍庵など)を説明したり他のグループホームの空き状況を伝えたり、他の施設を紹介したりしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の方は人生の先輩であることを忘れず、必要なときに必要なケアを提供するが、時には入居者から学び思いを共に感じられている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>密に連絡をとり、職員、本人、家族が大きなひとつの家族としてとらえて一緒に考え、本人をともに支えていくことができるよう努めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>絵手紙や電話を使った交流や、イベント行事に参加していただき、大切な方との交流が途切れないように努めている。 【家族を招いてのイベントは中止したが、リモート面会その他コロナコロナ感染が落ち着いている際は対面での面会も実施した。】</p>	<p>友人、知人との交友を希望されれば、事業所としては何時でも関係継続に積極的に協力する態勢にはある。昨今では利用者の馴染みの人は殆どは家族の方々である。コロナ渦の状況では面会も難しい場合があり電話や手紙の遣り取りをされていた。少し沈静化した時は距離を置いての面会もされている</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う仲間を把握し、教室や外出を一緒にいったり、孤立している方がいたら、職員が間に入り、入居者同士よりよい関係が築けるように努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>今までの友達やご近所の方との連絡をとりもったり、職員が、近況を伝えるお便りを出すこともある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制をとり、全職員が1~2人の利用者と密に関わりり本人の要望をききとっている。又全職員はGH会議で、担当以外の入居者の方の情報を把握している。	職員各々は、特定の利用者の生活面からバイタル面、メンタル面にいたるまでの総合的なケアを担当されており、日々の表出される様子を観察されて居室担当チェック表に記録されている。チェック表は一ヶ月分纏められてGH会議に提出され、全職員によって共有化が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族と協力しあい、道しるべなど独自のツールを使用しながら、生活歴や環境など細かな情報呑む把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当チェック表 プラン観察 チェック表により、様子を総合的に把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に一度家族に意見や要望を聞きとっている。又毎月1回のGH会議に全員が参加し、居室担当チェック表をもとにより良いケアを目指し、プランの見直しを行い、現状に即したプランを作成している。	介護計画作成にあたり、6ヶ月毎に家族の意見、要望の聞き取りをされて要望シートに記録されている。見直しについては、計画作成担当者、居室担当者を中心に毎月のGH会議で話し合わせ、看護師や主治医の意見、家族の要望も取り入れられた上で、利用者にとって最善の支援が受けられるように取り図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人に合ったプランの作成 個性を重視したプランの作成に努めている。1週間に1枚のケアプランチェックシートを活用し、総合的に把握できるようにしている。日々の記録にもれないかも計画作成がチェックし実践記録の確認をし次のプランに反映できるようにシステムとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと一緒にイベント・レク・居室の参加・法人のイベントの参加		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの友達やご近所の方との連絡をとりもったり、職員が、近況を伝えるお便りを出したりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者の方は月2回の往診をうけている。往診時には、日頃の様子を伝え、助言などを頂き良い関係を築いている。往診日以外でも、24時間体制で、連絡に応じてくださっている。又他の病院への受診も行っている。	入所以前からのかかりつけ医の診療継続も可能ではあるが、高齢な利用者の健康と安全確保には協力医療機関のように24時間体制で診療できる事が大切である事を家族はよく理解されている。月2回の往診、緊急受診時での職員の対応についても信頼されており、家族の了承のもとで利用者は協力医の受診を受け入れられている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>グループホーム看護師が18名の入居者とかかわりがあり、相談や助言をしている。訪問看護師とも気軽に話しが出来る。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は計画作成担当が中心になり、頻繁に病院を訪ね、状況を常に把握できるようにしている。又、家族、病院関係との担当者会議を開き、早期に退院できるように努めている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては、入居時から家族と話し合っている。家族の希望により、ターミナルも行っている。(20名) 主治医、グループホーム看護師、訪問看護師、管理者、計画作成担当と連絡をとりあい、チームとなり取り組んでいる。玄武令和3年度(3名)、4年度(0人)</p>	<p>重度化や終末期については再度、話し合われる事とされている。事業所としては生活支援のホームである事から医療的な支援ができない事は既に伝えられてはいる。家族からのターミナルケアへの希望があれば、主治医、GH看護師、訪問看護師、管理者、計画担当者などと相談され、受けられるようにされている。職員も終末期の介助支援に真摯に取り組まれている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に救急対応の勉強会を行っている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、日勤帯と夜勤帯を想定し、消防避難訓練を行っている。 【新型コロナの影響により、消防署立会では実施せず、自主訓練で行った】</p>	<p>年に2回火災発生時の避難訓練を実施されている。内1回は日勤帯を想定されベランダまで全員避難されている。もう1回は夜勤帯を想定され同じくベランダまで全員避難されている。備蓄品も整備されている。今年もコロナ渦の為、消防署の立ち合いはなく、自主訓練となった。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>業務終了後毎日、接遇についての振り返りを行っている。接遇、言葉遣いについての勉強会を行い、ひとりひとりが心がけている。</p>	<p>職員は今日一日の仕事についての振り返りや感想を「振り返りシート」に記入して、毎日回収箱に入れて提出されている。「振り返りシート」には言葉使い、挨拶、楽しく仕事が出来たか、等の項目があり自己研鑽の素材にもなっている。事業所は年2回の接遇研修も実施されている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>計画作成担当や、居室担当が特に密にかかわり本人が思いや希望を表せるよう働きかけ、自己決定を優先している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースに職員があわせ、必要なときに必要な支援を行うようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>女性は女性らしさを忘れないように、スキンケアや化粧品、髪型、服装などケアプランに取り入れたり、訪問美容室を利用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューについては、食事会議にて委託業者に入居者の方の好みなど伝え一緒に考えている。月2回以上はクッキング計画担当を中心に楽しみながらの食事作りを実施している。茶碗箸湯のみは自分専用であり、その他の食器も陶器を使用している。準備配膳片付けも一緒にやっている。</p>	<p>三食の食事のメニューは食事会議で決められており、その料理は委託業者が一階の厨房室で料理しグループホームに配食されている。職員は利用者の反応を、毎日検食簿に記入して委託業者に報告されている。月に2回の夕食はクッキング計画担当者が利用者の好みを考えて食材を買い、料理して利用者に出されている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事は毎日記録をとっている。水分補給はAMとPMに時間を設け、好きな飲み物をメニューから選び飲まれている。栄養バランスは栄養士による管理がされている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>必要に応じて週1回～月1回の訪問歯科を利用したり、毎食後一人一人の状態に応じた口腔ケアの声かけ、介助確認を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>失敗のある方でも、容易におむつを使用するのではなく、まずは排泄パターンをつかみ、トイレに誘導し、トイレでの排泄ができるように努めている。トイレは居室内のトイレを使用している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。その人にあった排泄の時間間隔を利用する事により、適格なトイレ誘導も可能になり、トイレ内での自立排泄に繋がるような支援を実践されている。日頃の様子は申し送りなどで共有されている</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日々散歩したり、体操したり、運動を毎日取り入れている。又必要に応じて、整腸作用のある飲み物を提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には最低隔日には入浴できるようにしている。出きる限り希望に沿えるようにしている。</p>	<p>二日に一回は入浴するようにされて、午後からあまり時間的に拘束しないようにされている。季節湯として、柚子湯、しょうぶ湯等を利用したり、入浴剤も楽しんでもらっている。シャンプーやソープも各自の物を使い気持ちの良い入浴サービスを提供されている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間眠れない方には、話をきいたり、足浴やホットドリンクなどリラックス効果のあることを支援している。日中も個々に応じて必要な方には、1~2時間程度休んでいただいている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬ファイルにていつでも確認できるようにしている。薬の効果効能、副作用なども、主治医、薬剤師、配置看護師から情報を得るようにしている。服薬支援はマニュアルに沿って行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>趣味の継続や余暇活動では、思考を凝らし楽しみごとなどの支援を行い、気分転換を行っている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩、外食など本人の希望に沿ってできるだけだけの支援を行っている。又、家族にも外出の案内を行い一緒に外出できる機会を設けている。 【新型コロナの影響でほぼ外出できなくなったが、コロナの状況が落ち着いている時は、車でドライブを行った。、園庭の散歩は定期的に行っている。】</p>	<p>今年もまだコロナ渦の影響を受けており、例年のような外出支援はできないでいる。その中でも十分な安全対策をした上でドライブに出かけた事もあった。しかし、普段は建物の周辺を散歩されたり、バルコニーで外気浴をされたりして、気分転換を図られている程度にとどまっている</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望のある方は、現金を所持し、使用されている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>全ての居室には、電話が設置できるようになっている。公衆電話も設置している。字の書ける方は、月2回程度定期的に家族へ出すための支援を行っている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>環境整備は常に気をつけている。季節に合わせての草花や観葉植物を設置している。光の差し込む場所にはカーテンを設置、光加減を調節している。リビングのテレビの音は、都度職員が気にかけて、調整している。また、毎月季節に応じた創作活動を入居者に行き季節を感じて頂ける機会を設けている。</p>	<p>共用空間は利用者が日中一番、長時間利用される場所である事からその整備には特段の配慮がなされている。リビング内の明るさは平均的に調整されたり音源もまた同様にされている。利用者が四季感を味わってもらえる様に観葉植物も取り入れられている。利用者の皆さんや職員が、お互いに寛ぎながら、自然に溶け合うような空間作りを目指されている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、ダイニングテーブルとソファの2箇所の空間を、廊下にもソファやテーブルを設置し、一人になりたい時は、居室で、みんなと一緒にいたい時は、リビングでと、本人の意思を尊重した援助を行っている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使いたくない家具や物品をお部屋に置いている。今までの生活を出きだけ崩さないように心がけている。安全面に配慮しながら、基本的には、レイアウトは本人、家族の意向に近い配慮を行っている。</p>	<p>これまでの生活から離れないように馴染みの家具や衣装や置物の持ち込みをされている。持ち込みが少ない場合は、利用者の作品を飾るなどして部屋に温かみを感じさせている。配置は安全面に配慮願っているが、家族と利用者が相談されあって気に入るようにされている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室担当が毎月のADLの変化をチェックし、出きる限り自分で出きることはして頂けるようにコミュニケーションをとっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない